九万五千人が集まりました。二〇一〇年九月、オスプレイ配備反対の県民大会が一〇万余り集まってありました。

大きなエネルギーと、たくさんのお金を費やし、沖縄の現実を変えようと県民の一割の一〇万人が集まるのです。それに対して、日本政府は残念ながら一顧だにしない。オスプレイ配備反対に対しては四一市町村の長、議長、議員すべてが反対した。オール沖縄という言い方をしますが、それが東京に行って直訴しても、その三日後には沖縄に飛んで来て、辺野古の基地建設の要請をする。辺野古の埋め立てに対して、たとえ一〇万人の県民大会をやったとしても、もう、なんの効果も無いのではないか。それでは私たちはどうするのか。「独立」を言わざるを得ない状況になってきていると思います。

五つの琉球処分

琉球処分の第一は一八七九年の明治政府が軍隊を派遣して琉球国を取り潰して、日本に併合して沖縄県にした。それが第一の琉球処分です。

「処分」とは権力の発動によって、一方的に決着をつけることです。そして、「処分」というのは処罰をするということです。沖縄は何か悪いことをしたのか。天皇メッセージの中に「日本の国民はそれを許すでしょう」という表現をしています。この根底にあるものは沖縄は日本ではなかった。だから、沖縄に対する差別は今でも横行している。

第二は一九四五年の沖縄戦です。日本軍・本土の防衛線としての最後のものが沖縄戦でした。本土決戦を準備するために長野県の松代に司令部を移す。天皇を守るために地下壕も作っていた。そして、戦争を継続する。そのために沖縄で勝てもしない時間稼ぎとしての戦争をやった。捨て石という言い方をされます。多くの人がたくさん死んでいます。多くの兵士が死に、民間人も十二万人が死んでいます。これが第二の琉球処分です。

第三の琉球処分はさっき言ったサンフランシスコ講和条約です。第四はいわゆる沖縄返還です。本土はどんどん米軍基地が撤退したけど、逆に米軍が撤退する場所として沖縄が置かれた。そして、今も日本にある米軍基地の七四％が〇・六％の面積の沖縄に集中している。

第五は何か。辺野古に基地を作ろうとしている